
君に桜餅をあげる

こぬか雨

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

君に桜餅をあげる

【Nコード】

N4944BA

【作者名】

こぬか雨

【あらすじ】

簡潔に言うと、孤児が狐の化身に助けられながら成長していく話。幻想的なのに日常的な話にしたいと思って執筆中↑

プロローグ 「今日と明日の境目で」 (前書き)

登場人物は女の子が多いので予めご了承ください。

残酷なシーン等はありません。

どちらかというとはのぼの系を目指しております。

プロローグ 「今日と明日の境目で」

水滴が一粒、額に落ちてきた。一瞬で弾けたそれを手で拭って、女の子は呟く。

「雨か……」

それはなんてことない平凡な言葉なのに、何故か特別な色を帯びて辺りに響いた。

次第に雨音が大きくなって、彼女の髪を手を足を濡らしていくのに、彼女はじっと空を見上げている。ジャングルジムのてっぺんで足を揺らしながら何をするでもなく。ただひたすらに空を見上げている。彼女の頭上、遥か彼方から落ちてくる大量の雨粒が、彼女のいる小さな公園に八つ目の水溜まりを作った頃、彼女は不意に空を見上げるのをやめた。

「今日も来たの？」

真っ直ぐ見つめるその先には、赤い傘を持った一人の女の子。着物姿のその子はジャングルジムの彼女よりずっと年下のようで、おかっぱ頭を縦に振った。

「濡れるよ」

その子は公園の中に入るでもなく、かと言って離れた場所にいるわけでもなく、道路と入口の境目辺りに立ったまま言った。

あはは、と喝いた笑いを漏らして女の子がジャングルジムから飛び降りた。

「もうとっくにびしょ濡れだよ」

彼女はそのまま女の子の方に歩いてきて、それを待っていたかのようにな女の子は歩き出す。

「怒ってる？」

しばらく前後になって歩いていると、年上の方の女の子が躊躇いが

ちに聞いた。

「別に」

素っ気ない返事に内心苦笑しながら女の子は確認してみる。

「そう？」

「そう」

「そっか」

「うん」

その後は大した会話もなく、夜の街を二人の女の子はてくてく歩いていった。着物の裾を邪魔くさそうに蹴りながら歩く女の子は傘の下から後ろの女の子を何度も振り返るけれど、当の本人は止みかけた雨とにらめっこをしていて全然こっちを見てくれない。

ふて腐れて歩調を速めた女の子の足がアスファルトを鳴らす。

これは、土曜日から日曜日に変わる頃のこと。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4944ba/>

君に桜餅をあげる

2012年1月13日19時51分発行